大避山（おおさけやま）１号墳

歴史巡検資料

場所：相生市若狭野町下土井（しもどい）字東山 大避神社北側

国道２号線相生駅より西進、右側にパン工房 Mountain を過ぎてすぐの福井信号を右折、矢野川まで直進し右折、川の土手を走るとすぐに、若狭野ふれあい公園があるのでそこに車を置き、橋を渡って右手を歩くと大避神社が左手にすぐあり。その北側の小さな山の上が大避山１号墳です。

大避神社から見た(北側)、大避山１号墳

大避神社北側の民家横より、ガイドがあれば約 10 分程度で墳丘の頂上（標高 68.6m の後円部）に登頂することができます。

墳丘の形状（くびれ部が細く、前方部がしゃもじの柄のような形状）は、「讃岐型前方後円墳」と共通し、３世紀半ば頃の築造と考えられています。埋葬型式（竪穴式石槨）や出土土器からみて、相生はもとより、播磨地域最古の前方後円墳とされています。

古墳の推定規模は、後円部から前部の方部分まで墳長約 57m、後円部の直径約 25m、前方部長約 32mあり、後円部から前方部に延びる「隆起斜道（りゅうきしゃどう）」が顕著であり、後円部と前方部の高さの差も約 5m あります。

現在は、樹木に覆われていますが、当時は、のちの矢野荘が見渡せる高台にあり、この地を支配していた首長が自分のお墓から支配領域を見渡せるように作られたことがうかがえます。この古墳の保存状態は比較的良好とされています。

そして、この古墳の最大の特徴は、後円部中央にある大きなくぼみです。長さ約 8m、深さ 0.7～0.8mのくぼみで、よく観察すると凝灰岩の板状石が見受けら

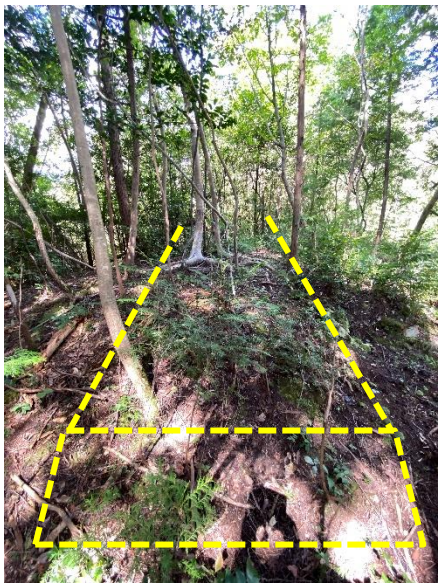
れます。これは、本来あった竪穴式石槨が崩壊し、空間が圧縮されてできたものと考えられています。

３世紀半ばとは、邪馬台国女王卑弥呼の箸墓（はしはか）古墳と同じ時代であり、播磨に同じ前方後円墳を造ることが許された首長が存在したことは、相生市にとって誇れる事実です。

後円部の縁に立って解説に集中

後円部中央の陥没部分(黄色破線部)

前方部より後円部を臨む



前方部の最南端の細い柄の部分
（黄色破線部）

参照：・「相生市史　第１・５巻」編集：相生市史編纂（へんさん）専門委員会
・「大避山１号墳測量調査報告」加藤史郎・中浜久喜・中村信義・松本正信
：『ひょうご考古 第８号』兵庫考古研究会